

第18問 更改に関する次のアからオまでの記述のうち、正しいものの組合せは、後記1から5までのうち、どれか。

- ア 債権者Aに対して金銭債務を負っている画家Bが、Aとの間で、当該金銭債務に代えてAの肖像画を描く債務を発生させる旨の更改をしたときは、当該金銭債務及びこれを主たる債務とする保証債務は、いずれも消滅する。
- イ A、B及びCがDに対して連帯して900万円の貸金返還債務を負っている場合において、AがDとの間で、900万円の貸金返還債務に代えて甲土地の所有権を移転する債務を発生させる旨の更改をしたときであっても、B及びCは、Dに対して引き続き900万円の貸金返還債務を負う。
- ウ 債務者の交替による更改がされた場合において、更改後の債務者がその債務を弁済したときは、更改後の債務者は、更改前の債務者に対して求償権を取得する。

- エ 債権者の交替による更改は、更改前の債権者と更改後に債権者となる者との間の契約によってすることができる。
- オ 債務者の交替による更改がされた場合において、更改前の債務者が更改前の債務を担保するために抵当権を設定していたときは、債権者は、更改前の債務者の承諾がある場合に限り、当該抵当権を更改後の債務に移すことができる。

- 1 アイ 2 アオ 3 イウ 4 ウエ 5 エオ

民法：67
第8問

更改・免除・混同

更改、免除又は混同に関する次のアからオまでの記述のうち、誤っているものの組合せは、後記1から5までのうち、どれか。

- ア 不可分債権者の一人と債務者との間に更改があった場合には、他の不可分債権者は、債務の全部の履行を請求することができない。
- イ Aが自己所有の甲土地を建物所有目的でBに賃貸し、Bが甲土地上に乙建物を所有する場合には、A及びCがBから乙建物を買い受けたときであっても、甲土地に設定された賃借権は消滅しない。
- ウ AがBに対して債務を負っている場合において、Bは、Aの承諾がなければ、その債務の免除をすることができない。

- エ AのBに対する債務について、債権者をCに交替する更改は、確定日付のある証書によってしなければ、第三者に対抗することができない。 ※一部の中
- オ Aに対する貸金債権を担保するために、BがC所有の甲土地に抵当権の設定を受けた場合において、その後、ABD間でDを債権者とする債権者の交替による更改をするときは、Bは、Cの承諾を得なければ、当該抵当権を更改後の債務に移すことはできない。 ※関連論点

- 1 アウ 2 アエ 3 イエ 4 イオ 5 ウオ